

メンバー

大塚賢一 45才
木倉 博 38才
田代恵子 36才
安田豊太郎 32才
岸本陽介 26才

Mountaineering Ski

Vol.5 2001. 3/24-25 氷ノ山ブン回し

天 候
晴 れ
曇 り
雨

コース

氷ノ山国際スキー場 --- 担ぎ --- 東尾根 --- 担ぎ・引っ張り --- 山頂 --- 北斜面滑降 --- 山頂 --- 南斜面滑降 --- 山頂 --- 滑降 --- 氷ノ山越え --- 担ぎ・滑降 --- 大平頭無人小屋泊 --- 滑降 --- 鉢高原スキー場 --- 担ぎ --- 氷ノ山国際スキー場

装 備

テント以外の雪山フル装備



紀行文

大塚賢一
田代恵子
安田豊太郎
木倉 博

写 真
編 集
大塚賢一

春の陽射しに誘われて、色とりどりの花が咲き乱れる頃、高山の雪もほどよく閉まりだし春山スキーの季節に突入する。

ゲレンデスキーヤーが重い雪に嫌気がさしてきたころ、重装備に身をまとった山スキーヤーの待望の季節となる。

山麓にコブシの花やネコヤナギも開花し春を感じる氷ノ山。この雪の下には今か今と雪解けを待ってフキノトウが芽吹いているのだろう。

町では桜の花が咲く頃、花冷えとなった山々には霧氷の花が咲き乱れて歓迎してくれる、その霧氷が陽光に照らされ木々からキラキラと落ちる景色はまさしくここに足を踏み入れたものにしか与えられないご褒美である。

今日は、最高の天気で昨日の放射冷却で雪もカチカチに凍っているので流れ尾根からのアイゼントレーニングに絶好の日よりである。と、その時「私アイゼンありません」と今日の紅一点の恵ちゃん。どうやら20日の蘇武岳縦走帰りにアイゼンを調整してもらうために福迫氏に渡したままだと言う。

しかたがないので東尾根経由に計画を変更する。まあこの東尾根からの登りもずっとスキーはザック固定なのでそれはそれで良いトレーニング

グになるのだが・・・。

スキーザック固定の重みが両肩に食い込み急坂の登りには両足が悲鳴をあげている。彼女には悪いが少しでも荷を軽くしようとアイゼンを装着する。

ここ氷ノ山は蘇武岳と違いかなりの雪も残っていて稜線からはスキー引っ張りに切り替える、肩の荷も軽く軽快に進む。陽介、恵ちゃん、ヤッさんの3人は初めてにスキー引っ張りに子犬でも散歩しているようにはしゃいでいる。しかしヤッさんは前日に社内でコンパがあったらしくて飲み会やバッティングセンターにまで付き合わされ完全な寝不足で早々にバテている・・・山スキーをなめてかかるととんでもないしっぺ返し自分が自分に返ってくるものである。

雪が多いために東尾根最大の急斜面も全ての熊笹がまだ雪の下で眠っている、また毎年大きなクレバスがあるのにそれすら見あたらない・・・滑降に最高のバーンとなっている。

途中休憩を挟みはしたものの5時間もかかって山頂に着いたのは初めてである。まるでラッセルをしてきたような時間である。

しかし、今日は無人小屋泊なのでそんなにあわてることもない・・・最高の天気にも恵まれた一日をゆっくりと楽しむことにする。

山頂で昼食タイムをとりいよいよ待望のスキー滑降の始まりである。まずは山頂直下の流れ尾根急斜面からシュプールを刻んでいく。さすがに陽介と恵ちゃんは滑りがサマになっている、今日の山頂泊の登山者から歓声を受けている。

次は南斜面のブナ林帯の大滑降である。私はこの滑降が非常に気に入っている。スカイブルーの青空に白い雪、そこにそびえ立つ大きなブ

ナの木の間をぬっての滑降はなんともいえぬ快感である。

滑っては登り返して、2度も滑ると十分に堪能できる・・・それが山スキーの素晴らしさである。

さあ、いよいよ北壁の滑降を経てブン回しに入る準備に取りかかるが、なんと今年は雪多しでなんとも味気ない北壁のトラバースであった。

しかし、ヤッさんはビビリが入って15mほど滑落。幸いにも14時を回って雪も緩んでいたのがよかった、これが朝一番の滑落劇だったらクラスト気味なのでただでは済まなかっただろう。

ここからはとんでもない雪尻の上を滑ったりトラバースしたり、ほんとに変化に富んだコースである。

今日の停泊地である氷ノ山越えの小屋に着くがなんと、先客が4人もいるではないか！、我々5人が入って寝る隙間もない。山頂小屋は15人もいるし・・・こんなにも小屋に泊まっている日は今だかつてない経験である。

しかたがないのでもう一つ向こうの大平頭小屋まで行くことにする。ヤッさんは疲れ果てた身体にむちを打ってもうへろへろである、しかし私が後ろで「250kmのウルトラマラソン完走者やる！、エイドステーションは遙か向こうのあの小屋にある、ガンバ！」と激を飛ばし、なんとか引っ張っていきが、そこで私にもアクシデント発生・・・なんとストックのリングが壊れて外れてしまった。これではステッキ代わりにもならないし、当然に滑降は出来ない。早速に7つ道具の竹割りを取りだし針金で十字に縛り付けて補修完了！。

山頂を遙か彼方にし夕日が傾き始める18時を回った時刻、やっと小

屋に到着、先客はいない。

ここまでくればブン回しの3/4は完走したも同然である。

疲れはてた身体にビールをそそぎ込むと彼の身体も元気を取り戻してきたようで、楽しい晚餐会となり我々の楽しい宴声を氷ノ山が包みこんでいるかのようで、いつしか心地よい眠りについていた。

明るる日、昨日とはうって変わったの天候で朝から雨が降っている、天気予報では午後からの予報だったのに・・・しかし昨日にロング行程を済ませているので気持ちもおだやかそのものである。

今日は鉢伏高原スキー場まで滑り込んで終了となるのだが、途中で私がブナ林に滑降すると、みんなは「なんであんなこと行くの?」と、不思議顔で止まってしまった。「お～い、オレを信じろよ～、こっちに間違いないから・・・」。みんなに地図は手渡してあるのに今朝一番に目を通しておけよ・・・雪山の常識である。

いつもならスキー場のドン詰まりまで滑り込んで、ザックをデポし運動靴に履き替えてランニングで氷ノ山国際スキー場までの5kmのアップロードを走って車をとりに行くのだが、今日はみんなでザック固定で小雨降る中2日間の余韻をおしゃべりしながらファイナルを向かえた。みんなそれぞれに思い出深い人生の1ページとなったことだろう。

「我々を心地よく迎え入れてくれた氷ノ山よ、
ありがとう・・・そして乾杯！」



元気一杯の恵ちゃん

田代恵子 36才

教訓その1 1人のミスがみんなに迷惑をかける。

超いい天気! 真っ青な空。ウキウキ・ルンルン。テンションが高まる。なのに・・・スタート直前、私のアイゼンがないことに気づき、急ぎょ予定していた流れ尾根コースを東尾根コースに変更してもらうことに・・・。ごめんなさい。みんな楽しみにしていた流れ尾根からの景色、そして、初めてのアイゼンワークトレーニングの予定だったのに・・・残念! 本当にごめんなさい。

教訓その2 厳しい雪山、体調は整えて!

今日は初めての山小屋お泊まり。三食分の食料と寝具でずっしり重い荷物。そして、スタートから、これも初めてのスキー板のザック固定。“1人で荷物が背負えないよー!!”、つぼ足徒行。たまに、ずぼっとふみぬく“キヤー”。急斜面もつらい!

大雪原、青空のもと、スキーひっぱりで歩くのは、なんて気持ちがいいんだろう! 幸せ!。

なのに、今日のヤッサンはとってもつらそう。前日のコンパ・慣れぬバッテリーセンター遊びがたたり、体調不良だそうだ。

教訓その3 大塚さん曰く、“怖がるな! 行けー! 行けー!”

山頂は大雪原。滑りたーい! とウズウズしてくる。スキーNOWみたいだ! あー気持ちいい。陽介は超かっこいい。

ブナ林の中をくぐり抜けて滑る。おもしろい! 最高!。

山頂から小屋までは、せっぴの細い道を滑る。怖い。避け過ぎて、陽介も私も穴ぼこにはまる。ヤッサンはトラバースに失敗して滑落・・・。

教訓その4 山の中、何が起るかわからない。

お泊り予定の山小屋に到着したけれど、先客がいて、次の小屋まで行くこととなり、みんなガッカリ！特に潰れているヤッサンは・・・そこから小一時間ほどだったけど、なかなか怖い、ハードなコースでした。ようやく、大平頭小屋に到着。小さな小屋でしたが、快適・快適。みんなのザックから、どんどんビールが飛び出して、いつものごとく大宴会となりました。

朝起きると、小雨が・・・山頂には霧が・・・昨日ここまで降りてて、よかった・よかった。朝から大塚ザックパッキング教室。ヤッサンのザックが見違えるほどコンパクトに。



樹林帯の引っ張り

教訓その5 一つずつ、防水バッグに入れて、きっちり詰めよう！

小雨の降る中、レインコートに身を包み、出発！。昨日と違って、重い雪になっていましたが、ルンルンの下り。それに比べて、最後のオンロードの登りが超・超きつかったです。ずっしり荷物が肩にくい込んで、バテバテでした。が、昼前には車に到着し、私にとって初めての2日間の縦走が無事終了しました。

充実した、楽しい2日間でした。

安田豊太郎 32才

明日は氷ノ山にアタックするというのに急にいろいろと予定が入り帰ったのが11時過ぎで寝るひまも無く、準備にあくせくしてた金曜日。

土曜日は天気が良かったけど、僕の調子は今ひとつ。早くも行く前にパニック状態となり部屋と車の鍵をなくしてしまいました。なんとかスペアキーで自

宅を脱出。

7時スキー場の近くから出発したはいいいが、初めてパッキングし、初めて担ぐアタックザックはどうも背中にしっくりこず、はやくも体力消耗。バランスの悪い重いザックを背負ってスキー場についたころからもうバテかけていて東尾根に登る急斜面を見たときは、もうビビってしまっていました。

そんなわけで東尾根に取りついた頃はもうバテバテもいいところでその頃からみんなを待たすようになって、最悪の状況に・・・でも、氷ノ山の頂上についてザックを降ろして遊んでいる時は全然しんどくなくて、むしろ楽しかったです。

どうやらザックを担ぐと調子が悪くなるみたいでした。その後の氷ノ山越えまでの

滑降も重い荷物を背負いながら滑るのは大変なことでした。北壁で滑落。幸い木に引っかかって止まりました。

その後も、スキーコントロールを一步でも間違えれば雪尻を踏み抜き、死にそうな場面が所々あり必死になって切り抜けていました。

やっとのことで辿り着いた氷ノ山越えの山小屋は満員で急遽予定を変更して、大平頭の小屋へ向かうことに・・・この頃から1歩1歩がものすごくしんどくなり、頭はもうパニック状態。なんとか大塚さんに気合入れてもらい、我に返ってゆっくりですが進むことができました。後で地図を見ると短い距離に見えるけど、重い重いザックを担ぐのは嫌で嫌でもう大変でした。

こんなことにはならないように次回は万全の準備と体調で望みたいです。その後の小屋泊まり&宴会、2日目の滑降は期待していた以上に楽しかったです。

初めての本格的スキー登山縦走は非常に勉強になりました。

天気は快晴！気温も高くなりそうだ！

5人で早々に流れ尾根に向かおうとしたら？恵ちゃんのアイゼンが無い？プレートを付けてやるからと、福迫さんが預かったままだった、大塚さんが「福迫～！??」と少し怒る、仕方なく東尾根から登ることに、安田君、恵ちゃん、陽介は貴重なアイゼントレーニングが出来なくなった。

スキー場から東尾根に向かい登り出したが、安田君がしんどそう。みんなではげましながら登る、尾根についてからスキー引っ張り！陽介と安田君は忘れていたので大塚さんが作る、安田君は相変わらず疲れ顔だ。

私が後ろから「大丈夫か？」と声をかけながら行くが返事が疲れてる。

前に行く恵ちゃんはタフだ！「きや～」、「わ～」と楽しそう！。

ここから急な登り！安田君も大きく遅れる。天気も良いし早く上で遊びたいが、安田君はそれどころでない、時間をかけてやっと小屋が見えた。安田君の顔に笑みが・・・なんとか頂上だ、ここで昼食、何人がスキーで登って来ていた。

昼食後、流れ尾根を滑る、恵ちゃんが大塚さんのビデオセット後滑る、うまい！。

続い陽介、ギャラリーが見る中、雪屁から飛んで行った。歓声が・・・。

続いて私が気持ち良く滑り、安田君も無難に下り、大塚さんが最後に下りた。また上り返して、今度は南斜面のブナ林に向かい滑りました。

みんな気持ち良く良い雪を楽しんだ、私と陽介は上半身裸で上り返した。

いよいよ北壁だ！大塚さん、陽介、恵ちゃん、安田君



東尾根への取り付け

が見えた。大塚さんがそこで待つように合図！、陽介から滑って来た、しかし疲れてたのか大コケ。安田君も何とか来て17時半過ぎにみんな無事到着！

素晴らしい無人小屋で今日の結果話しを肴に遅くまで飲み明かしました。

翌日は小雨混じりであつたが9時までのんびり、出る頃は雨も普通にふって来た。



担ぎはいつもつらい

と出た！安田君も無難に出たが、こしき岩の斜滑降で滑落！。私が滑った後に無事上り返したが、ここで又体力消耗。

氷ノ山越の小屋に向かい楽しく滑った。しかし氷ノ山越の小屋は満員でこの先の大平頭の小屋に向かうことに・・・、しばらく行くと大塚さんのストックのリングが破壊、直ぐさま応急処置を行う(さすがである)。

私が先に行くが、ここからが難所、横の雪屁は崩れているし、前に見えた小屋が遠い・・・何とか滑る所まで来て17時前にやっと小屋に着く、小屋は誰もいないが、2階が無い小屋でした。

みんなを迎えに1ピーク行くと向こうから4人

スタートは悪雪で難しい滑りでした。高丸のリフトにつく頃は本降りの雨、スキー場から氷ノ山越の登り口まで歩きで無事んびりフィナーレ！。

今回は初日天气に恵まれて楽しい滑りも出来たし、私やみんなも装備の点検不備な所がわかり、意義有る2日間でした。